

令和4年度 京都府立京都八幡高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「ユニバーサルデザイン(UD)」を基本理念とし、「科学・共生・感動」のコンセプトを具現すべく教育活動を展開し、生涯を通じて不断に学び考え、多様な人々と協力し合いながら、主体性を持ってより良い社会作りへ貢献できる人材の育成を目指す。そのために、以下のことを推進する。</p> <p>(1) 学習における基礎・基本を徹底し個性を伸ばすことにより、知識・技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等、幅広い学力を育む活動を推進する。</p> <p>(2) 基本的な規範意識と倫理観、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性・社会性を育む活動を推進する。</p> <p>(3) すべての教育活動の実践をとおして、南北キャンパスの絆を強め、教職員の資質向上に努めるとともに、信頼され、期待される学校づくりを推進する。</p>	<p>昨年度に引き続き今年度も、コロナ禍での緊急事態宣言やまん延防止等重点措置に伴う感染対策等の対応を徹底しながら教育活動を進めた。授業では教室内外の徹底と密着・接触に気をつけながら、学校行事についてはできる限り中止せず工夫を凝らしての実施となった。</p> <p>ICT活用教育については、これまでに校内環境の整備が進み、更に、今年度入学生からは「1人1台端末」が実現する。1人ひとりの教育的ニーズ・理解度に応じたきめ細かな指導と情報活用能力の育成が期待できる。指導方法について、研修会等を図り教職員のスキル向上が必須となる。</p> <p>本校の特色である八幡支援学校との交流及び共同学習については、一部は本来同様実施できたものの、今年度も遠隔交流等が中心となり、内容の変更を余儀なくされた。当方は、両校のスクールパートナーシップを更に深めていくために、工夫を凝らしての実施となる。</p> <p>生徒アンケートでも指摘される「学校全体に学習する雰囲気や欠けている」という状況の改善が積年の課題である。『あたり前のことをあたり前にする』という生活意識の習慣化に自覚的に取り組みながら、生徒一人ひとりが、夢と希望を持って、自らを高め、自己の将来を切り拓くための知識、技能、そして、自ら課題を解決する力を養うことが望まれる。それが地元中学生から選ばれる魅力ある学校づくりにつながるであろう。</p>	<p>南北両キャンパスそれぞれの個性を生かしながら、あらゆる教育活動をおして、「科学・共生・感動」の3つのコンセプトの具現化を図るとともに、生徒及び保護者に信頼され、地域から期待される学校づくりを推進するため、以下のことを本年度の重点課題とする。</p> <p>(1) 新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導の充実と、特色ある教育活動の推進</p> <p>(2) ICT教育の充実を図り、学習形態のUD化推進と、学習評価に関する研究の推進</p> <p>(3) 保護者・地域との連携による基本的な生活習慣の確立及び社会的自立心の育成</p> <p>(4) キャリア教育の充実、推進</p> <p>(5) 感染症対策をはじめとする安心・安全な教育環境・施設設備の整備と充実</p> <p>(6) 就学保障及び進路保障に向けた指導改善の研究・研修の充実</p> <p>(7) 学校行事、部活動、ボランティア活動等の充実による学校の活性化</p> <p>(8) 八幡支援学校との協働を含めたインクルーシブ教育の推進・研究</p> <p>(9) 普通科と専門学科それぞれの教育内容改善に向けた検討と方策の具体化</p>

分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標		ターゲット	評価	具体的方策	方策の評価指標		ターゲット	評価	成果と課題		
				重点目標の評価指標	ターゲット				方策の評価指標	ターゲット					
			「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたか。				重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。	どのような状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。		中間	年度末			
組織運営	組織運営	教育力の向上	学校の教育力を一層向上させる。	教職員の研修機会を増やし、資質向上を図る	研修受講数	3	センター研修の積極的な受講を促し、専門研修の受講機会を増やす。 授業見学の充実	受講数 授業見学に参加する教員数	前年度比増 延べ100人以上	3	3	3	センター研修等の案内を定期的に配信し、経験や必要に応じた受講を勧めた。専門研修の受講者数に顕著な増加はなかった。校内の授業見学はICTを活用した授業が増え、延べ300名程度あった。		
		ICTの活用	ICTの効果的な活用の研究及び実践	研究及び実践の回数	実施数	3	ICTを活用した学校運営、組織運営 効果的なICTの活用の研究を進め、授業改善にいかす。	新しい取組の実践数 公開授業数	3企画以上 延べ30回以上	3	3	3	学校運営での事務的手続き等はデジタルを活用するよう努めた。集計や手続きでの作業量を減らすことができた。また、授業での活用も進んでいる。業務、授業改善のツールとして定着を図る。		
UD推進部	UD教育	UD学習	ユニバーサルデザインの姿勢や態度を身に付けさせる	学校満足度アンケート「人権意識を高めるための学習や指導に積極的に取り組んでいる」項目に対する肯定率	78%	3	校内のUD化を推進する 効果的なUD学習を実施する	企画実施回数 UD学習後の教員アンケートにおける内容評価(4段階中)	3回以上 3.2	2	2	3	3	今年度の学校満足度アンケートで「人権意識を高めるための学習や指導に積極的に取り組んでいる」項目に対する肯定率が86%となり、目標の78%を達成することができた。UD学習については、教員アンケートの内容評価が3.5であり、学年部と連携しながら実施できたことと考える。今後も、UD学習等を通じて生徒の人権感覚を磨いていきたい。校内のUD化に関しては、効果的な取組ができており、継続した課題として検討していきたい。	
		生徒募集	本校の魅力や効果的に発信し、志願者を増やす。	入試選抜における志願者数	前年度の志願者数を超えている	3	学校ホームページの充実 本校の魅力や向上させる取組の実施や掲示物等の作成 学校説明会の開催	最新ニュースの発信やコンテンツ更新の年間回数 掲示物等の作成 参加者のアンケート肯定率	130回以上 3回以上 90%	3	3	2	2	3	学校ホームページに関しては、多くの協力を得て2月終了時点で178回更新することができた。今後も本校の魅力が伝わるよう積極的に更新していきたい。 学校の魅力を向上させる取組や掲示物等は、新規で掲載するには至らなかった。次年度へは目標として、継続的に検討していきたい。 学校説明会のアンケート肯定率は94%と目標を達成した。今後もより魅力的な取組を実施し、継続的に検討していきたい。 学校説明会のアンケート肯定率は94%と目標を達成した。今後もより魅力的な取組を実施し、継続的に検討していきたい。 学校説明会のアンケート肯定率は94%と目標を達成した。今後もより魅力的な取組を実施し、継続的に検討していきたい。
教務部	組織・運営	生徒異動	学習システムのUD化を進める	転退学者数	昨年度比減	3	考査前、学期末に成績不振者に対する基礎補充を実施する 追認対象生徒に対する補充を実施する 校務システムへの入力及び欠課過多生徒の報告(連絡)の徹底を呼びかける	成績不振者数 追認認定率 注意喚起及び状況報告の実施回数	昨年度比減 80%以上 週1回	2	3	2	3	3	成績不振者数、追認認定率はともに基準を満たした。来年度も今まで以上に生徒にとって分かりやすい手立てとなるよう、基礎補充や考査前学習会などを計画的に行いたい。
		学力向上	学習指導の充実を図る	学校満足度アンケート「Q8:学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	60%	3	読書活動の推進 ICT活用の推進	生徒一人あたりの貸出冊数 研修会の実施回数	昨年度比増 3回	2	2	3	3	「学校全体に学習する雰囲気があるか」に対する肯定率は66%となった。ICT機器の導入にともない、多様な形態での学習活動が展開できた。読書活動の推進については課題がある。生徒・教職員がこれまで以上に図書館を利用できるよう授業との連携、選書等を実施していきたい。	
生徒指導部	生徒指導	生徒指導	高校生としてふさわしい態度や行動を身につけさせる。	学校満足度アンケート(Q12)の肯定率の平均	肯定率75%以上(令和4年度79%)	2	高校生としてふさわしい態度についての啓発活動(担任への資料提供、生徒会活動、教室掲示等) (北キャンパス)携帯電話指導を用いた指導 生活規律指導を用いた指導	実施回数 1学期と3学期を比較した増減 (北キャンパス)第2クールと第5クールを比較した増減 (南キャンパス)前年度に比較し、各クール遅刻7回に達した生徒の数	10回 10%減 10%減 30%減	2	2	2	2	2	携帯電話指導は学期ごとに一定数、指導を受ける生徒がおり、改善は見られなかった。生活規律指導においても、特定の生徒が繰り返し指導を受けることが多かったため、学年と協力して指導を行い、改善を促す必要がある。
		部活動	生徒の主体性を育み、学校への帰属意識を高める	学校満足度アンケート「本校に打ち込める部活動や体験活動などがありますか」の肯定率	肯定率75%以上 強い肯定率35%以上	2	部活動加入を促進 生徒部通信等の発行によるアピール 部活動、部長会の開催	12月時点での部活動加入率を昨年度より5%増加 発行回数 発行回数	48% 10回 3回	2	2	2	2	2	部活動加入率は41.7%と高い数値を記録しているが、南キャンパスが56.7%を記録しており、北キャンパスが低い数値となっている。来年度以降も部活動加入率が増加するように生徒指導部を中心に促進活動を考えていきたい。
進路指導部	キャリア教育の充実と推進	組織的な進路指導と進路実現	各学年との連携を密に、正しい職業観、勤労観を身に付けさせるとともに、明確な進路目標を持たせることで進路実績の向上を図る。	学校満足度アンケート調査「就職・進学に関する情報の提供は十分だと思いますか」の肯定率	肯定率87%以上	2	進路情報を効果的な提供を行う。 ホームページ記事を年間を通じて継続的に更新する。 進路ガイダンスやHRIにおける進路学習を通じて、進路実現について考える機会を持つ。	生徒向け進路だよりの発行回数 記事の更新回数 学校満足度アンケート調査「生徒の進路実現に向けて、効果的な指導を行っていると思いますか」の肯定率	5回以上 30回以上 肯定率83%以上	2	2	2	2	2	進路ガイダンスやHR等を通して、各キャンパス、各学年の状況に応じて、進路意識や職業観の育成などに向けて取り組む機会を提供してきたが、目標として設定した数値を達成することができなかった。生徒の希望進路実現のために、年間を通じての継続的かつ積極的な指導、取組が必要である。
保健部	保健管理	環境管理	環境美化への意識を高め、清掃活動を充実させる。	学校満足度アンケート「17「教室や廊下、下駄箱等はきれいに清掃されていますか」の肯定率	74%	3	安全美化委員会、保健委員会、生徒会で、清掃活動への取組に関する呼びかけを行う。 「ほげんだより」に環境美化についての呼びかけを掲載する。	呼びかけの回数 掲載回数	2回 1回	3	3	2	3	3	学校満足度アンケートQ17において、肯定率が78%と上回った。また、環境美化や清掃活動への取組も呼びかけだけでなく生徒を巻き込んで実施することができた。次年度も環境美化への啓発や取組を通じて、生徒一人ひとりが校内美化に対する意識を高めていけるよう働きかけを継続していきたい。
		健康管理	心身の健康管理への意識を高める。	学校満足度アンケート「16「本校は、生徒の心身の健康管理に取り組んでいると思いますか」の肯定率	80%	3	「ほげんだより」や「スクールカウンセラーだより」で心身の健康管理について取り上げる。	掲載回数	3回	3	3	3	3	学校満足度アンケートQ16において、肯定率が88%と上回った。また、「ほげんだより」で心身の健康管理についての内容を掲載し、生徒への啓発を行うことができた。次年度も生徒一人ひとりが健康に楽しく学び健康増進への意識を高めていけるよう働きかけを行いたい。	
第1学年部	学習指導・生徒指導	規律の確立と維持	日々の学校生活及び授業を大切にす基本的な生活習慣の確立を図り、それを維持する。	学校満足度アンケート「学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	60%	3	日々のSHRにおいて遅刻・欠席・授業規律などの徹底した指導を行う。 生徒の状況を把握するために担任と生徒及び保護者との面談を行う。 主に総探を活用し、キャリア教育や交流行事等を推進することで職業人としての自立を促す。	担任による確認・指導頻度 面談の実施回数 キャリア教育研修会の実施回数	週3回 年間3回 年間10回	3	3	2	3	3	1年間を通してSHRやLHR等において授業の大切さや基本的な生活習慣を身につけられるよう指導するとともに、適宜面談を行うことで生徒の状況把握に努めた。その結果、学校満足度アンケート「学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率が目標である60%を大きく超える78%であった。
第2学年部	生徒指導	生活規律の確立と進路意識の向上	安心した高校生活を通して、進路への希望を持たせ、進路希望未決定者を減少させる。	学校満足度アンケート「学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率及び学年末進路希望未決定者数	肯定率60%以上 未決定者20人以下	2	日々のSHRにおいて遅刻・欠席・授業規律などの徹底した指導を行う。 主に考査前の7限を活用し、生徒が自分の課題に応じて学びを深める時間を設ける。 進路情報の提供と個別面談の実施 南北キャンパスの連携を密にする。	担任による確認・指導頻度 学習会の実施回数 進路学習及び面談回数 情報の共有頻度	週3回 年間10回 学習3回面談5回 週1回	3	3	2	3	3	学習面、生活面について生徒へのこまめな声かけだけでなく、保護者との連絡も密に取ることができた。また、その内容を学年間や他分掌と共有することができた。取組については分野別で講座を企画し、個に応じた指導を心がけた。しかし、アンケートの「学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率が60%を下回っており重点目標の達成はできなかった。来年度は卒業学年として学習に前向きに取り組ませ、希望の進路を実現させるよう指導に当たりたい。
第3学年部	進路指導	進路保証	生徒一人一人に対し、進路を決めて卒業させる。	年度末の進路決定者の割合	95%	3	個別面談を通して生徒の希望進路を把握し、各分掌や保護者と連携して指導を行う。 学習環境や面接練習等の個別指導体制を整備し、生徒の希望に応じた指導を実施する。 南北キャンパスの連携を密にする。	生徒や保護者との面談回数 自習室の設定日面接練習等の個別指導回数 情報の共有頻度	3回 3回 週1回	3	3	2	3	3	進路決定者の割合は全体の95.2%であった。未決定者については卒業後も引き続き連絡を取り、全生徒の進路保障と把握に努める。
事務部	施設設備管理	生徒の事故防止	安心・安全な教育環境・施設設備の整備と充実を図る。	施設設備に起因する生徒の事故件数	0件	3	校舎・敷地内の日常点検を実施する。 教職員から施設設備の異常報告を受けた際に、速やかに対応策を検討する。 改修等を必要とする案件を所管課に報告し、改善を依頼する。	巡視の週当たり実施回数 対応策の決定・改善完了の報告 報告・依頼の時期	1回 報告毎 案件毎	3	3	3	3	3	空調設備、エレベータ設備は12月、消防設備は3月に修繕完了。2棟トイレ全面改修、手洗いセンサー設置(3棟トイレ、1棟4階HR、職員室)、プロジェクター設置(5教室)を完了。
		組織・運営	事務処理	生徒・保護者等に対して、ICT教育の充実、就学保障、進路保障に関連する連絡や処理を適切に行う。	ICT機器購入(新規)及び就学援助(従来)についての周知徹底	制度通知の都度	3	生徒・保護者等に対する連絡や、手続きの進捗状況を北南の事務部内で共有し連携を図る。 教職員(特に学年部)との連携を密に行う。	配付資料、校内締切日等の調整・確認 配布依頼の際に、関係資料の説明及び周知を適切に行う。	案内毎 案内毎	3	3	3	3	令和4年度の南キャンパスの非常勤事務員1名減により、従来は南キャンパス事務室で処理していた一部業務を北キャンパス事務室で集約化した。次年度も継続して業務改善に努めたい。
専門学科	魅力ある学科作り	学習指導	専門学科に必要な主体的に学ぶ姿勢を涵養し、自己や環境に対する肯定感を高める	学校満足度アンケート「本校に入塾して満足していますか」の肯定率	87%	3	教室及び机の周囲の整理整頓を行い、学習環境を整え、必要に応じて改善を促す。 社会的自立心と主体的に学ぶ姿勢を向上させるよう働きかける。 授業の開始時と終了時の礼と挨拶、授業準備を徹底する。	各教室の巡回及び点検を行う。 学校満足度アンケート「11「将来の進路や生き方について考える機会が設けられているか」 授業アンケート10「私は授業の準備をしっかりとっている」	週1回以上 肯定率90%以上 3.6以上	3	3	3	3	3	学校満足度アンケートQ1-92%・Q11-93%、授業アンケート10も3.68と目標を上回ったが、エチケットや規範意識についての肯定率が低かった。次年度は安全で安心な学校生活、倫理観の向上について取り組みが必要である。

分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標	ターゲット	評価	具体的方策	方策の評価指標	ターゲット	評価	成果と課題
			「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたか。			重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。	どういう状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。		中間 年度末	
国語科(北)	学習指導	学力の向上の意識付け	生徒1人ひとり、クラス・講座全体が積極的に授業に参加し、学力の向上を実感させる。	授業アンケートQ6の平均値	3.5	2	定期テストごとに評価のフィードバックし、記録させる。 単元ごとに1回以上の授業内容を踏まえた課題を課し、それを評価する。 学習習慣の定着のため、計画的に小テストを実施し、それを評価する。	実施回数 実施回数 実施率	定期テストごと 単元ごとに1回以上 90%	2 3 3	中間評価の結果をもとに、再度教科担当で生徒自身が学力・技術の伸長を感じるように声かけなどを意識した。1学期の授業アンケートのQ6の平均値は3.22だったが、2学期には3.26となり、どの学年も数値が上がっていた。来年度に向けて、より生徒が伸びを感じるような工夫を教科全体で考えていきたい。
地歴・公民科(北)	授業	基礎学力の向上	学習に向かう雰囲気を作り、基礎学力の向上を図る	授業アンケート項目Q3、6、8の平均値	3.4	2	授業開始時に教科書、資料集、ノートなど必要物を確認する。 考查ごとに学習内容の振り返りを行う。 学期ごとに授業見学と意見交流を行い、ICTの活用方法などを共有する。	年間実施率 実施回数 実施回数	95% 5回 2回	3 3 2	評価指標が3.2であり、1学期よりも上昇したが目標には及ばなかった。来年度は授業の質の向上だけでなく、生徒の学力伸長により焦点を当てて取り組んでいきたい。
数学科(北)	授業	授業規律の向上と授業への積極的な参加	規律ある授業を確立し、生徒たちに意欲的に取り組ませ、基礎学力の充実を図る。	授業アンケートQ3「この授業は説明がわかりやすい」Q12「私は積極的に取り組んでいる」の平均値	3.3	2	服装等の身だしなみ、起立、礼を徹底する。 意欲を高めるプリントや教材を作成し、演習をさせる。 ICT活用について教科内研修を実施する。	授業の取組の点検 プリント等利用の回数 教科内研修の実施	週3回 週1回 年3回	3 3 3	授業アンケートQ12の項目が3.12と低い結果であった。興味関心を引くような教材の活用方法・指導方法について教科内研修会を行い、積極的な授業参加を促すように工夫を行う。
理科(北)	授業	基礎学力の向上	授業に興味・関心をもたせ、自然現象に対する関心と理解を高める。	不振者数の減少		3	実物を手に取っての観察や実験、実験動画を用いて「考察」を行わせる。 生徒の学習内容の定着度を高めるために単元テストを行う。 課題を設定し、レポートを作成させ、科学的な思考・表現力を高める。 授業・受け持ち生徒および評価に関する報告・検討会を設ける。	実施回数 実施回数 実施回数 実施回数	各講座毎均3回 各科目2回以上/学期 各科目2回以上/学期 年間2回以上	2 2 2 3	すべての講座で実験を充実させることはできなかったが、学習用端末を用いて観察や考察の機会を提供することができた。レポート課題を課し、資料を読み解き、まとめる力の向上にも取り組んだ。未知の事象について自ら調査し、知ることで興味関心を高めることができた。
保健体育科(北)	授業	学習意欲の向上	自らの健康を管理し、改善できる資質や能力の向上を図る。	授業アンケートQ9「あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいる。」の平均値	3.5	3	ベル着、授業開始時と終了時の挨拶を徹底する。 授業での身だしなみ、ルールやマナーを守る意識を向上させる。 健康の保持増進につながる基礎体力の向上を目指す。	体育・保健ともに授業開始1分前に授業の準備をして集合完了と、しっかり整列して挨拶ができる割合 体育・保健ともに、装飾品や化粧など身だしなみをしっかりとし、怪我なく事故なく安全のためにルールを遵守する割合 トレーニング30秒MAX、持久走、ロードレースの記録向上割合	60% 60% 60%	2 2 3	体育・保健とも授業開始時までに集合・整列し、意識を持って授業に参加する様子が見られた。また、持久走やトレーニングにおいて、初めに比べて記録が伸び、体力向上が認められた。
芸術科(北)	授業	授業の取り組み状況	授業規律を確保し、諸活動に真剣に取り組む姿勢の定着を図る	授業アンケートの項目7.8.10.11の全講座平均値	3.5	3	授業開始チャイムの前からルン着呼びかけ、忘れ物の確認や私語・居眠り・活動状況について常に指導する。 取り組み課題について、作品や演奏でより良い表現を目指して粘り強く努力するように指導する。 目標の成果を發表する場を設定することで、自己の作品・演奏に責任を持たせるとともに、鑑賞指導の充実を図る。	授業規律確保のための声かけの状況 各生徒の活動状況に応じた指導の割合 作品や演奏を發表し鑑賞する場面の設定(講座クラス内での発表会を含む)	常時 80% 全講座、年1~1回以上	3 3 2	自分なりのこだわりや「よりよいもの」という思いを持って制作活動や表現活動に取り組むことを意識させるよう心がけ、発表し相互に鑑賞・評価し合う場面の設定によって懸命に活動に取り組もうとする姿勢がどの生徒からも見られた。松花堂での展覧会は今年度も開催できなかったが、文化祭以外でも、校内展示を実施した。
英語科(北)	学習指導	基礎学力の向上	授業を大切にしている意識を育て、家庭での学習習慣の確立及び基礎学力の向上を図る。	授業アンケートQ6「学力・技術の伸長を感じる」の平均値	3.3	2	小テストや授業の振り返りシート等を実施し、生徒の学習状況と定着度を確認する。 「知識・技能」だけではなく多様な観点から評価できるよう課題を精査し、こまめな点検を実施する。 授業内演習や表現活動について内容を精査し、生徒が主体的に取り組む時間を確保する。	各学期の実施回数 各学期の実施回数 各学期の実施回数	10回以上 10回以上 2回以上	3 3 2	2学期の授業アンケートより、Q6(学力・技術の伸長を感じる)の平均値が英語科全体で「3.18」で、1学期の結果とほぼ変わらず重点目標の達成には至らなかった。小テストやこまめな課題点検だけでなく、生徒の実情に応じて、教科全体より効果的な指導方法を検討し共有していきたい。
家庭科(北)	学習指導	学習意欲の向上	授業に前向きに取り組ませ、今後の自分の生活をより良くする方法を考えさせる。	授業アンケートQ12「私は積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている」の平均値	3.3	3	興味関心を持たせ、内容の理解度を高めるために、視聴覚教材を効果的に使用する。 授業プリントやノートを点検し、生徒の理解度を確認する。 授業の内容と自分の生活を結びつけるためのレポート課題を提出させる。	ICT機器の使用割合 授業プリントやノートの点検回数 レポート課題の回数	90%以上 2.3年、毎週、1年、学期2回 学期に4回以上	3 2 3	特に1年生の授業で、iPadを使用した授業やレポート課題などを積極的に実施することができた。教科書にはない情報や機能を活用して、生徒の学習姿勢や生活を向上させる意欲を伸ばす工夫をしていきたい。
情報科(北)	授業	授業に対する取り組み状況	前向きに授業に取り組む、情報化社会で生きていくための知識と技術を習得させる。	授業アンケートの「私は積極的に先生の質問に答えたり課題に取り組んだりしている」の平均値	3.3	2	授業開始時にコンピュータのログイン、教科書等の授業準備が完了しているよう指導をおこなう。 課題・授業プリントの提出を徹底する。	生徒自身の授業準備完了率 提出状況	90% 80%	3 2	積極的に取り組んでいるものの平均値が3.26で、課題の提出状況も中間よりは改善したが70%程度だった。来年度はどちらも数値が上がるように声掛けを初めからしていきたいと思います。
商業科(北)	授業	授業の成果	ビジネスに関する知識や技術の修得と資格取得	授業アンケート「学力や技術が伸びた」の回答の平均値	3.1	3	ビデオ教材や新聞資料等を授業に取り入れ、興味関心意欲を高め、学びを深める。 毎時の授業の最後等に、学習の振り返りができる時間を設定する。 資格取得の有効性を説明し、受験者および合格者を増やす。	実施回数 各授業での実施率 ビジネス系検定試験の受験者数	3回以上 80%以上 20人以上	3 2 2	授業においては、興味関心を高めるとして教材を視聴したり、新聞記事を活用した。授業の振り返りを行う日報を導入したが、実施率が70%となり、目標の80%には届かなかった。資格取得に関しては、13名の生徒がチャレンジした。目標の受験者数以上に受験した。来年度は、資格取得の進捗を把握し、受験者を伸ばしたい。具体的方策は、3つのうち1つが目標を達成できなかったが、重点目標の授業アンケートの「学力や技術が伸びた」の回答の平均値は、3.3となり、目標の3.1は達成できた。
国語科(南)	学習指導	基礎学力の向上	積極的に学習する雰囲気作りを努め、基礎学力の向上を図る。	授業アンケートQ7~Q12の平均値	3.4	3	定期調査毎にノートを回収し点検する。 授業外での学習習慣の定着を図り、小テストを行う。 ICT機器を活用し、授業内容への興味関心を促す。	点検回数 小テスト回数 機器使用回数	5回 年間10回以上 単元毎に1回	2 3 3	授業アンケート結果が3.52と、評価目標を上回った。また、具体的方策も概ね達成することができた。
地歴・公民科(南)	学習指導	基礎学力の向上	授業を意欲的に取り組む姿勢を身につけさせ、基礎学力の向上を図る	授業アンケート項目Q1~Q12の平均値	3.3	3	授業中にノートを取らせる。また、学習項目毎にまとめ・感想を記入させる。定期的な点検をし、加点の対象とする。 授業開始時に、教科書・ノートなど必要物を確認する。 ICT機器を活用し、授業への興味関心を促す。	実施回数 年間実施率 機器の使用回数	5回 95% 単元毎に1回	2 3 3	授業アンケートでは平均値が(3)の基準を上回っている。しかし、特に1年生のタブレット本格活用には至ることができなかったため、次年度改善したい
数学科(南)	学習指導	基礎学力の向上	授業規律を確立する。生徒の学習意欲を高める工夫をし、基礎学力の充実を図る。	授業アンケートQ10「私は授業の準備をしっかりとしている。」の平均値	3.4	3	定期的な課題を課し、家庭学習の習慣と基礎学力を身につけさせる。 始業チャイムと同時に立礼をし、授業に取り組む態度を身につけさせる。	実施割合 実施割合	70% 80%	2 3	授業アンケートQ10は3.49と増加し、主体的に取り組む態度の向上に努めることができた。今後はICT機器なども活用しながら、さらに家庭学習の充実を図ってきたい。
	検定・資格	検定受検・資格取得	数学検定を通して数学に対する興味・関心を引き出し、数学的な見方・考え方を身につけさせる。	数学検定の受験者数	5名	3	数学検定への受験を呼びかけ、資格取得を意識させる。 数学検定に向けた補習を行う	授業内での呼びかけ 補習の実施回数	3回 2回	3 2	12月に第2回の数学検定の募集をしたが、募集人数が少なかったため、実施できなかった。実施の時期や回数について検討していきたい。
理科(南)	学習指導	基礎学力の向上	学力の定着を図るため、学習に取り組む姿勢を高める	授業アンケート項目「この授業は楽しさ」の評価の平均値	3.3	2	各生徒の学習状況を把握するため定期調査毎にノート点検。 成績不振者に学習方法の指示を行い、状況に応じて補充を行う。	学習したノートの提出 成績不振者への補充実施	定期調査毎に提出 定期調査毎に実施	3 3	第2学期の授業アンケート項目「この授業は楽しさ」の評価の平均値は3.24であった。1学期よりわずかに上昇したが、学習に取り組む姿勢を高めるために次年度も模索していく。
保健体育科(南)	授業	学習意欲の向上	授業開始時の意欲を高める。	授業アンケートQ10「私は授業の準備をしっかりとしている。」の平均値	3.8	2	体育/保健の授業開始時における生徒準備状況を評価する。 授業ノート並びに指導計画案等提出物を期限内に提出する。	授業開始前の授業準備状況や集合整列状況の点検頻度 提出率を上げる。	90% 80%	3 2	準備、後片付けの協力状況はよいが、余裕をもった集合ができなかった。振り返りノートの未提出者が固定化している。提出率も下がっている。
芸術科(南)	学習指導	生徒の授業への意識の向上	意欲的に取り組む姿勢を高める	授業アンケート7.8.9の平均値	3	3	机間指導等の学習への取組状況の確認。 課題や作品の提出期限を守らせる。 私語・居眠り・活動状況等について常に指導し、授業規律を確保する。	生徒の活動状況に応じた指導の割合 提出期限の明示、声掛けの実施 授業規律の確保のための声掛け割合	常時 学期毎 80%	3 3 3	2学期授業アンケートの、項目7.8.9の平均値は3.60であった。全体的に意欲的に取り組んでいる生徒が多く、意欲に欠ける生徒も声掛け等によって、授業に積極的に取り組むことができていた。
英語科(南)	学習指導	基礎学力の向上	授業を大切にしている意識を育て、基礎学力を向上させる	授業アンケートQ7~12の平均値	3.5	3	ICT機器を活用した授業の実施 小テストを実施し、生徒の学習状況と定着度を確認する。 表現活動を実施し、生徒の主体的な学びを促す。	実施割合 各学期の実施回数 各学期の実施回数	80% 5回以上 2回以上	3 3 3	授業評価アンケート上記項目の平均値が3.68と目標数値を上回った。来年度も生徒の学習状況などに応じた目標を設定し、達成できるように努めたい。
家庭科(南)	学習指導	基礎学力の向上	実践的・体験的な授業を通して、家庭科に対する興味関心を引き出すとともに、知識・技能の向上をはかる。	授業アンケート5.6の項目の平均値	3	3	実践的・体験的な授業の実施 ICT機器を活用した授業の実施 授業時間内の課題や、振り返り課題の実施	実践的・体験的な授業割合 実施割合 実施割合	60% 80% 60%	3 3 3	2学期授業アンケートの項目5・6の平均値は3.52であった。実践的・体験的な授業を取り入れることで興味・関心を引き出し、多くの生徒が意欲的に学ぶことができた。
情報科(南)	学習指導	学習意欲の向上	主体的に授業に参加し自ら学ぶ態度、姿勢を育てる	授業アンケートQ12「私は授業に積極的に取り組んでいる」の評価の平均値	3.3	3	授業開始時にはコンピュータ起動ができていないか点検する。 課題への取組状況や態度を点検する。	指導割合 指導割合	80% 80%	3 3	授業アンケートQ12の結果は3.61であった。情報科の授業を通して情報処理技能検定などの検定受験希望者も増加し、学習意欲の向上につながることができた。
福祉科	学習指導	基礎学力および、専門的な知識や技術の定着	授業規律を確立し、福祉に関する専門的な知識・技術の定着を図る。	授業アンケートQ7「クラス・講座全体が授業の準備をしっかりとしている」、Q8「クラス・講座全体が集中して授業に取り組んでいる」の教科全体の平均値	3.3	3	授業開始後、速やかに授業に集中できるように学習環境を整え、規律ある授業を行う。 ICT機器を活用した授業を行い、学習形態のUD化の推進をはかる。 生徒の様子や授業内容について情報交換を行い、授業改善に役立てる。	授業アンケートQ7「クラス・講座全体が授業の準備をしっかりとしている」の教科全体平均値 全ての科目で年間実施回数 教科会議の実施回数	3.3 10回以上 月2回以上	3 3 3	授業アンケートQ7、Q8が3.5と基準に加え中間結果も上回り、ICTを活用した授業実践もできた。来年度は授業を通して専門的な知識だけでなく、規範意識や倫理観をさらに育てていきたい。